家庭数配付

2025年全国学力・学習状況調査の結果について

「答えを出す力」と「考えの過程を説明する力」
～学校と家庭がともに育む、子どもの学びの力～

令和７年９月１７日
裾野市立南小学校

「全国学力・学習状況調査」における本校の結果について、分析と今後の取り組みについてまとめましたのでお知らせします。今年度は、国語・算数・理科の調査を行いました。正答数については、いずれの教科も県平均および全国平均をわずかに上回り、子どもたちの基礎的な力が着実に育っていることが分かりました。

≪３教科の分析を通して見えてきた成果と課題≫

成果	課題
子どもたちが**『答えを出す力』**はしっかりと身に付けている。	「どうしてそう考えたのか」「どのように考えたのか」といった**『考えの過程を説明する力』**には課題がある。
今後の学校での取り組み	
考えの過程を表現する活動の充実 授業の中で「どうしてそう考えたのか」「どのように考えたのか」を表現する場面を増やします。 **話し合い活動の充実** 考えを友達と伝え合い、関わりの中で自分の考えを説明する場面を意図的に設定します。	

≪“考えを話す”って楽しい！日々の会話が学びに変わる≫

どの学年のお子さんも、日々のちょっとした声かけが「考えの過程を説明する力」を育てることにつながります。たとえば、「どうしてそう考えたの？」「どうしてそれを選んだの？」「どこが面白かったの？」といった一言を取り入れることで、自然と自分の思いを説明する機会が増えます。大切なのは、**楽しく会話をすること**です。**「考えを話すって楽しい！」**という気持ちが芽生えることで、子どもは自分の考えを表現するようになります。それが、説明する力の向上につながります。学年関係なく、日々の何気ない会話が、子どもの表現力を育てる大きな力になります。

≪教科ごとの成果及び課題、今後の取り組み≫

国語	◎話の意図を捉える力、図や絵を使って関連付けて考える力が育っています。 ▲意見を分類・関連付けてよりよい考えをつくることや、文章全体の目的に応じた情報の読み取りに課題があります。 ≪今後の取り組み≫ 意見の共通点や違いを捉え、説明し合う活動を通して、よりよい考えをつくる力を育てます。「伝える」と「伝え合う」など語句の意味の違いを丁寧に扱い、言葉の理解を深める授業を進めます。
算数	◎情報を整理して考える力や単位量の考え方を使って問題を解く力が育っています。 ▲図形の関係性を言葉で説明する力、計算過程を図や言葉を使って表現する力に課題があります。 ≪今後の取り組み≫ 公式の意味を言葉や図で表現する活動や計算の過程を説明し合う活動を通して自分の考えを論理的に表現できる力を育てます。
理科	◎条件制御の考え方や、物質の状態変化、電力と巻き数の関係など、基本的な科学的な見方・考え方が身についています。 ▲金属の分類と性質の関連付け、文章から条件を読み取って説明する力に課題があります。 ≪今後の取り組み≫ 複数の事実や結果を関連付けて考察する力を育てます。また、学習内容を生活と結びつける活動を通して、理科への関心と理解を深めます。

※裾野市全体の傾向をまとめたプリントも配付しましたので、ご覧ください。